

鳥栖警察署協議会開催結果の概要

令和7年1月22日

会 議	令和6年度第2回鳥栖警察署協議会
開催日時	令和6年12月2日（月）午後3時～午後5時
開催場所	鳥栖警察署4階会議室
出席者	○ 公安委員会 牛島委員 (1人) ○ 協議会 木原会長、鶴田副会長、榊谷副会長、菅委員、藤田委員、内山委員、佐藤委員、碓委員、手島委員、古村委員、天田委員 (11人) ○ 警察署 尾形署長、上原副署長、片山刑事官、今村警務課長、牧生活安全課長、野口地域課長、古賀刑事第一課長、緒方交通課長、笹川警備課長、警務係長 (10人) 計22人
議 事 概 要	
<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶 委員の皆様には、第2回警察署協議会にお集まりいただき、ありがとうございます。また、牛島公安委員には、本日、本協議会に御出席いただき、ありがとうございます。 警察署の皆様には、10月に開催された国スポ大会の警備を完遂され、大変お疲れさまでした。 これから年末に向けて事件や事故が多発し、署員の皆様が忙しくなることを願っています。くれぐれも、体にお気をつけください。 さて、本日は署長からの諮問を受けることとなっていますので、十分に時間を取って、良い議論ができたと思います。 本日もよろしく願います。</p> <p>3 署長挨拶 令和6年度第2回鳥栖警察署協議会の開催に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。 当署管内の治安情勢等につきましては、ニセ電話詐欺被害に加えてSNS型投資・ロマンス詐欺被害が急増し、10月末現在の被害額は1億円を上回っています。 また、管内の人身交通事故につきましては、10月末現在で333件（前年同期比-31件）の発生と若干の減少はみられるものの、交通死亡事故が2件発生しており、厳しい状況にあります。 引き続き署員一丸となって、犯罪の抑止対策及び検挙活動、交通事故防止対策等を推進し、安全で安心な地域社会の実現に努めて参ります。 さて、本日の協議会では、委員の皆様には「自然災害への対処について」諮問を行う予定ですが、皆様御存じのとおり、今年1月には最大震度7を観測した能登半島地震が発生したほか、9月には同じ石川県能登半島で豪雨災害が発生しました。 また九州北部では、梅雨時期になれば毎年のように豪雨に見舞われ、昨年7月には、佐賀県内各地で河川の氾濫や法面崩壊が続発しました。</p>	

警察では、激甚化・頻発化する豪雨災害への備えを強化する必要性を改めて認識し、災害対処訓練や資機材機材の整備・活用を進めておりますが、自然災害からの命を守るため、様々な御意見、御要望を賜りたいと思っております。

4 諮問

(1) 諮問の内容

警察署長から「自然災害への対処について」諮問がなされた。

(2) 補足説明

警備課長が、協議会委員に対して

ア 自然災害等への対処

最近の自然災害の発生状況と警察活動

イ 自然災害による主な被害状況の推移（令和元年～令和5年）

ウ 令和5年7月の大雨での活動状況

エ 被災地での活動事例

オ 大規模災害への備え

災害対処能力の向上

等について補足説明した。

(3) 協議

委員 災害時の交通規制は警察と道路管理者のいずれが主導するのか。バイパス（主要地方道久留米基山筑紫野線）が凍結した場合に、早めに通行止めにはできないか。

警察 警察官が現場で通行止めを行うことは可能であり、その後は、道路管理者と協議の上で交通規制を行う。

委員 バイパスが凍結したとしても、（チェーン等を装着すれば通行が可能な場合があるので、）すぐに通行止めにするのは難しい。

警察 災害を想定し、消防等と合同した連絡・救助訓練が必要と思う。消防や隣接の久留米警察署と合同で訓練を実施している。（行政や民間団体など）他機関との合同訓練も必要だと考えている。

委員 消防団は、コロナ禍以降、訓練の機会が少なくなって、現在、あまり訓練ができていない。

警察 災害時には消防団を含めたマンパワーが必要なので、警察と合同で訓練ができないか。

委員 合同訓練の実施について検討したい。

警察 みやき町では災害での避難者を想定した訓練があり、防災士から防災グッズの説明などがあるなど、参考になった。

委員 訓練へは個人として参加したので、この訓練で行政や消防、地域住民がどのような形で連携しているのかということについては、その状況がよく分からなかった。

警察 地域住民の視点を踏まえて、関係機関を含めた地域全体の災害対策訓練が必要である。

委員 道路状況は市町で把握しているのか。

警察 市役所や町役場で把握しており、警察でも把握している。

警察 原子力防災訓練では、地域住民を含めた関係機関が合同で訓練を行っており、災害に関しても、このように市町を含めた関係機関が合同で訓練できる機会を持てれば良いが、合同訓練を実施するためには調整や準備が必要になる。

委員 災害時に携帯電話が使えない時の情報入手方法は何があるか。

警察 ラジオ等で情報を入手することができる。

警察 警察では警報等が発令されれば、連絡室を立ち上げ、様々な方法で情報収集を行う。

委員 大雨時に道路が冠水して車両が通行できない状態でも規制されていないことがあった。

警察 警察でもすべてを把握することは難しいので、そのような場合は躊躇すること無く110番通報をしてほしい。

委員 数年前、大雨で集落が孤立したことがあった。

委員 消防もボートを導入しているが、訓練が必要である。

委員 災害時は人命救助が最優先なので、地域住民も消防や警察と一緒に訓練を行うべきだと考えている。

委員 基山町では町が主体となり、消防団と合同で訓練をしている。

基山町の訓練では、社会福祉協議会も参加しているので、日頃から関係機関との連携が取れており、基山の斜面が崩れたときには、社協がボランティアセンターをすぐに立ち上げることができた。

委員 実際に災害が起きた場合、避難所が足りないのも、企業にも避難場所として施設を利用できるように依頼しておく必要がある。

委員 消防と自治体の訓練に警察も参加してもらいたい。自治体や消防、警察がどのような防災・減災対策を行っているかということに関心がない一般の方が多数いる。

警察 警察では、一人暮らしをはじめとする高齢者世帯や、災害危険箇所を把握しているのか。

警察 高齢者世帯は、交番や駐在所の警察官が巡回連絡を行う中で把握に努めており、巡回連絡時に非常時の連絡先などを把握している。独居の高齢者などを優先して把握しているが、居住の状況が変化するので情報の更新が課題となっている。

警察 災害危険箇所は、市町の防災会議に出席して情報共有するとともに、警察独自で把握し情報について関係機関に提供している。

委員 関係機関毎にその活動に見えない部分があるので、合同訓練を実施して更なる連携が必要と思う。

(4) その他

委員 道路の通行止めがリアルタイムでわかる方法はあるか。

警察 すべての通行止めをリアルタイムに反映することは難しいが、道路管理者のホームページに掲載はされている。

5 牛島公安委員講評

「自然災害への対処について」の諮問に対して、様々な立場からの意見が出ていました。

より実効性のある連携ができれば良いと思います。

安全安心な佐賀県を作るため、警察官と皆様の顔の見える関係、信頼関係を築くことが大切です。

協議会委員の方々には取組を更に前へ進めていただき、また、警察と皆様方が連携を強めていけば、安全安心な社会が実現できると思います。

本日はお疲れさまでした。

6 その他

次回、開催は、令和7年2月に予定

7 閉会

8 その他

(1) ドライブレコーダー映像を使用した交通指導係長による交通安全講話

(2) 本部交通指導課員によるKYT（危険予測トレーニング）体験